

## バイオテクノロジー標準化支援協会ジャーナル No.169

SABS Journal No. 169

発行日：2026年6月16日

URL：[バイオテクノロジー標準化支援協会ジャーナル \(sabsnpo.org\)](http://sabsnpo.org)

既に関東地方も梅雨入りです。前号で「今年はいろいろな植物の花が例年になく咲き競っていて道端の雑草にも花が一杯」と書きましたが、咲き誇っていた大型のバラの花も殆ど散りました。そして丁度台風が太平洋岸の沖を通過して豪雨と強風が終わって梅雨に入りました。少し前からアジサイが咲き始めたのですが、これがまた非常に美しい花を例年より沢山咲かせています。シトシトする梅雨のためその後は少し気温が下がり、お陰で紫陽花は満開のまま長く目を楽しませて呉れています。

毎度取り上げている異常気象はもはや常態化しています。来年はもっと酷くなりそうです。「このエスカレートは続いています」とまた書かなくてはならないのは怖ろしいことです。我が国では初夏と晩秋の時期のカラッとした天気というのは‘良い天気’という意味でした。今や梅雨期なのに曇っていても湿度が低く、洗濯物の外干しが可能なのは大変有難いのですが、皮膚が乾燥して困っている人たちも多いようです。高温のせい今年蚊が増えつつあります。雨が少なくてもポーフラはちょっとした水たまりで短時間で増えます。庭が広いお宅では水溜りのできないように藪や叢を手入れする必要があります。ここ数日所謂 **urban bear** が全国的に増えました。宅地ではクマは茂みに隠れるので藪刈りは野獣対策としても大切でしょう。

相変わらずの悪い話です。今や世界は沢山の独裁者がいて、彼らが起こす戦乱が続きます。独裁国ではない筈の大国の大統領が起こしたイラン侵略で、戦後何度目かの「オイルショック」がまた起こってしまいました。オイルショックを調べるとなんと最初は1973年で日本では所謂主婦の買占めが起こったのが有名です。これは限られた地域と人々の行動で終わりました。アメリカでは一時的にガソリン供給が止まり給油のため長い車の列ができたのを当時滞米中の私は経験しましたが、直ぐに収まったようです。日本では自動車会社が競って燃費の安い車を開発、アメリカの市場をほぼ独占し日本の高度成長を支えました。1978年の2度目の時は既に我が国は高度成長を成し遂げ豊かだったので殆ど問題にならなかったようです。今回は違います。まず一時オイルショックで減らした石油関係の消費がどんどん増え、その後景気が悪くなくてもドンドン消費は増えていて、我々の生活はこんなにも石油に頼っていたのかという事実に今回ビックリしたわけです。幸い日本はハイブリッドや電動車の技術は世界一といえます。もっとバスやトラックなどの商用車にも普及させることも大切です。また太陽や風力などの再生可能エネルギーの発電も大切です。石油からは分溜などで得られるナフサがあります。この透明な液体はガソリンの原料になりますがエチレンの様なプラスチック原料でもあります。再生可能発電で出来る電力で水の電気分解を行って生産できる大量の水素を使って、原油、石炭、廃油、大量のゴミになって焼却される廃プラスチック類に水素添加反応でナフサを製造するのです。揚げ物で食堂から大量に出て来る廃油は既に水素添加で航空機燃料としてつかわれています。これまた大量に出るエンジンオイルの廃油など現在大部分焼却されていますがこれも水素化で石油やナフサに出来ます。トラックやバスなどの巨大なタイヤの再利用も始まっているようです。再利用出来ないタイヤは廃プラスチックの一種ですからこれもまた水素添加出来るはずで。

一方、農業や林業などの一次産業から得られる有機化合物にもっと目を向けてはいかがでしょうか？ 前号で触れたのですが、例えばセルロースは地球上で最も多く存在する有機化合物で、安定的に存在するのは森林の

樹木です。森林には天然林と人工林がありますが、どちらも太陽光で二酸化炭素を固定する光合成の結果得られる安定な産物である木材を生産します。木材はセルロース、ヘミセルロース、リグニンなどの天然高分子が主成分です。これらをプラスチック原料として利用するのです。実は最初のプラスチックの一つは、セルロースをニトロ化して作るニトロセルロースを樟脳に溶かしたセルロイドでした。ご存知のようにニトロセルロースは今も使われる火薬です。火災や爆発などの事故も多かったのです。そこで後にニトロ化ではなくアセチル化して安全なアセチルセルロースが開発され、写真フィルムや様々な製品が最近まで使われてきました。ヘミセルロースは5炭糖ポリマーを主成分とする多糖類の混合物ですが、プラスチック原料というよりも医薬品原料として例えばキシリトールなど利用が拡大し始めています。リグニンはポリフェノールの不規則なポリマーですが、利用の研究は進んでいるようです。セルロース、ヘミセルロース、リグニンはそれぞれ大体木材の3分の1ずつ存在しています。どれも自然界に光合成産物として大量に存在していることに注目したいと思います。「災い変じて福となす」で本格的に取り組む良い機会でしょう。

さて、「コンビニに並ぶ毒」という記事が目につきました：

[https://medical.nikkeibp.co.jp/leaf/mem/pub/series/yakushiji/202606/593548.html?n\\_cid=nbnpno\\_ml](https://medical.nikkeibp.co.jp/leaf/mem/pub/series/yakushiji/202606/593548.html?n_cid=nbnpno_ml)  
ed これは今問題として報道されている新宿歌舞伎町などで異常に大量の風邪薬などを一度に飲んで所謂 **High** になる人々の存在です。毒とは一部のコンビニでは買える風邪薬などです。ちょっと Web で調べると、このような OTC (Over the Counter) 薬品を売っているコンビニは非常に多いことが判ります。それで今年 5 月、改正薬機法が施行されました。そこでは 18 歳未満への市販薬の販売が一部制限され、風邪薬などに含まれるエフェドリン、プソイドエフェドリン、コデイン、ジヒドロコデイン、メチルエフェドリン、プロモバレリル尿素の 6 成分を含む市販薬が「指定濫用防止医薬品」として位置付けられました。これらの成分を含む製品については、18 歳未満への販売が小容量(おおむね 5~7 日分) 1 箱に制限され、対面またはビデオ通話などによる販売が義務化されました。所謂ネット販売などの抜け道をどうこれから取り締まれるのかが大きな課題となりそうです：

[https://www.mhlw.go.jp/stf/web\\_magazine/closeup/20.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/web_magazine/closeup/20.html)

ウイルスを使った癌の治療法の記事が二つ出ています。遺伝子組み換えで無毒の単純ヘルペスウイルスを特定癌細胞のみに感染するよう改変したウイルスを使う方法です。

まず悪性神経膠腫患者に対するベバシズマブという抗癌剤タンパクを発現するヘルペスウイルスを用いての臨床試験が東大医科研で始まりました：<https://www.ims.u-tokyo.ac.jp/glioma/research/T-BV/index.html>  
この医師主導治験では、ベバシズマブ発現型抗癌ヘルペスウイルス (T-BV) と呼ばれる遺伝子組換え型単純ヘルペスウイルスです。また岡山大学とオンコリスバイオファーマ株式会社から、標準治療が難しい食道がんに対する腫瘍溶解ウイルス製剤テロメライシンの医薬品製造販売承認申請が厚生労働省に医薬品製造販売承認申請がありました：[https://www.okayama-u.ac.jp/tp/release/release\\_id1480.html](https://www.okayama-u.ac.jp/tp/release/release_id1480.html) このオンコリスという会社は実はもともと岡山大学のバイオベンチャーとして設立された会社で、東大医科研のプロジェクトもオンコリス社と共同研究です。成果が期待されます。そして多くの難しいガンの治療に使われるようになるということも期待されます。

前々回の定例会で当 NPOSABS の運営について討議されました。2007 年の発足以来 20 年近く膨大な運営や経営の事務など全て荒尾進介理事が担当しておられたのですが、これらの仕事が田中雅樹理事に引き継が

れました。若い田中理事の新しい試みの一つとして、定例会演者などの音声や参考資料を収めたデータはこれまでCDに収めていたデータを文書化してSABSホームページに収めることになりました。既にホームページから文書をダウンロードして入手出来るようになっています。

前回の定例会は2度目の日曜日開催でした。前日は異常な寒い日だったのに再び暑さが戻りました。心配していたのですが、結局、ほぼ前回と同じく11名ほどの出席があり、盛会となりました。話題は健康問題が多かったのですが、「お互い頑張りましょう」という事もあり大いに盛り上がりました。通産省OBの田坂勝芳理事から現役時代のお話、特にバイオテクノロジー標準化の関係でのご苦労などが話されました。これは当NPOの出発点となったテーマでした。

今回の定例会は夏休み前なので恒例で懇親会とし皆さまの近況報告や話題提供をお願いすることにしました。なおこの定例会は6月20日土曜日です。久しぶりの土曜日開催なのでどうかお間違いなく。

## バイオテクノロジー標準化支援協会（SABS）第140回 定例会のお知らせ

日時:2026年6月20日(土曜) 13時~17時

場所:八雲クラブ(東京都立大学同窓会)渋谷区宇田川町12-3 ニュー渋谷コーポラス10階

話題: 話題・近況報告など

演者: 出席者の皆さん

定例会会場八雲クラブへの道順:

渋谷駅ハチ公脇の大交差点を渡り、井の頭通りの坂道の右側を東急ハングルの看板を目指して登り、ハンズの手前で右手の急坂に入る。坂の途中で新しいPARCOビルを右に見ながらT字路を左に曲がり坂道を登り切った所で左側に建つマンションがニュー渋谷コーポラスです。入口の短い階段を降りてエレベーターに乗り、10階で降ります。直ぐ左隣の部屋が八雲クラブです。

定例会は、原則として毎月第4土曜日に開催して参りました。7月と8月、そして11月は休みとしています。12月の会は原則としては第1土曜日でしたが、ここ数か月、八雲クラブでは他の催しの割り込みがあって予定通り予約が取れないので仕方なく土曜ではなく日曜となってしまいました。今年4月は第3日曜日の4月19日に、5月もまた第4日曜日の24日に開催せざるを得なくなってしまいました。ご不便をお掛けしていましたが、幸い6月は第3土曜日の20日をとることが出来ました。今回の定例会(9月)は2ヶ月以上先のためクラブの規定により現在まで未だ予約出来ていません。予約出来次第お知らせします。

なお前回話題提供をお願いした田崎勝芳理事のお話などを中心に8月8日土曜日に臨時特別定例会を開く予定です。その会場を八雲クラブに確保出来ました。特別定例会の詳細はいずれ近いうちに‘臨時SABSジャーナル’でお知らせする予定です。

バイオテクノロジー標準化支援協会(SABS)は、故奥山典生先生(東京都立大学名誉教授)によって2007年に創立され、SABSジャーナル第1号はその年の10月11日に発行されました。以来、奥山先生は2015年の第73号(5月17日発行)まで執筆されて居られました。先生はそのわずか2日後の5月19日、訪問先で倒れられ、救急搬送入院、療養されて居られましたが、6月13日に逝去されてしまいました。混乱の中、当時の理事

たちで今後について話し合った結果、その年の6月19日には何とかジャーナル第74号をまとめることが出来ました。以後、本ジャーナルは引き続き定期的に発行され、今回は第169号となります。SABSジャーナルでは、奥山先生が様々な分野にわたる蘊蓄を毎号ご披露されて居られました。先生には全く及ぶべくもありませんが、現在は蘊蓄もどきの話題を筆者(檜山哲夫)が書いています。ぜひ読者の皆様からのご投稿をお待ちしています [thiyama@athena.ocn.ne.jp](mailto:thiyama@athena.ocn.ne.jp)。

当協会のもう一つの大きなプロジェクトは学術雑誌「医学と生物学」の発行です。免疫学者緒方富雄博士が1942年に創刊した総合学術雑誌で戦後も継続発行されていましたが、2013年に休刊となりました。それ以来、奥山先生はこの雑誌の復刊に努力されて居られました。しかし残念ながらご存命中には実現は出来ませんでした。我々後継者は川崎博史理事を中心に努力し2018年にインターネットジャーナルとして復刊することが出来ました。下記ウェブで御覧になれます:

<https://medbiol.sabsnp.org/EJ3/index.php/MedBiol/issue/view/52>

なお最新号は166巻大号です。創刊号からの内容も上記ウェブのアーカイブで表紙をクリックすると内容の閲覧が出来ます。「医学と生物学」はオリジナルの研究報告論文の他、総説、解説、エッセイなども掲載しています。ぜひ皆様からのご投稿をお待ちしています。

このSABSジャーナルは、バイオテクノロジー標準化支援協会(SABS)会員だけではなく、広い意味でのバイオテクノロジー関係の方々に配信しています。現在、このジャーナルを読んで下さる方々は600名近く居られます。多くの方が奥山先生の関係で、先生の広がった人脈に改めて驚いています。ぜひ読者の方々からも話題提供をして下さる方をお待ちしています。当SABSジャーナルのホームページ [https://sabs.sabsnp.org/sabs\\_j/](https://sabs.sabsnp.org/sabs_j/) ではジャーナルの最新号を含めたバックナンバーが収録してあります。またお知り合いの方でこのジャーナルを配信ご希望の方が居られましたら会員である必要はありませんので筆者のアドレス [thiyama@athena.ocn.ne.jp](mailto:thiyama@athena.ocn.ne.jp) に直接お知らせください。また配信停止、新規会員登録、アドレス等の登録情報変更等のご希望やウェブサイトに関するご意見もメールでお寄せください。

## 特定非営利活動法人バイオテクノロジー標準化支援協会

NPO Supporting Association for Biotechnology Standardization (SABS) URL: <http://sabsnp.org>

理事: 荒尾進介、小林英三郎、田坂勝芳、松坂菊生、小川哲朗、川崎博史、田中雅樹、檜山哲夫

監事: 堀江 肇